

公益財団法人としての新たなスタート  
日本水泳連盟2020年に向けての構想



センターポールに日の丸を!



2012年9月

## 2012年、日本水泳連盟は公益財団法人へ

21世紀の幕開けとなった2001年、福岡で開催された世界水泳。日本選手団の活躍とともに、連日のテレビ放送で盛り上がり、「水泳ニッポン」復活への歩みが始まりました。

2002年はパンパシ水泳が横浜で開催、イアン・ソープ選手来日もあり水泳競技への認知度もより一層上がり、2003年には、北島康介が世界水泳バルセロナで2種目世界初の2冠に輝き、オリンピック金メダルへの期待も大いに高まりました。

「センターポールに日の丸を」のスローガンで臨んだ2004年アテネオリンピック。国民の期待に応え北島が見事2冠に輝き、柴田亜衣も金メダルを獲得。「水泳ニッポン」の復活です。

2005年以降、強豪国に匹敵する成績を挙げ始めた日本の水泳競技。2008年北京オリンピックでは、北島が平泳ぎ2種目2連覇を果たし、国民的アスリートとなりました。

そして2012年。ロンドンオリンピックが開催される今年、日本水泳連盟は公益財団法人へと生まれ変わります。

日本体育協会と日本オリンピック委員会の100年構想とも連動して、国民に、更には世界に対して、広く意義のある存在となるべく、日本水泳連盟はより大きく成長します。



日本体育協会・日本オリンピック委員会

センターポールに日の丸を!

# 日本水泳連盟 近年の歩み

年度	主な活動	備考
2001	初の世界水泳開催(福岡)	シンクロ立花・武田が世界水泳初の金メダル 日本スポーツ科学センター(JISS)オープン
2002	パンパシフィック開催(横浜)	北島アジア大会で世界新樹立
2003	北島世界水泳2冠で世界新	世界水泳シンクロで金メダル
2004	北島・柴田のオリンピック金メダル	一発勝負の代表選考会実施
2005	世界水泳で史上最多12個のメダル獲得	世界水泳横浜の招致活動
2006	シンクロワールドカップ開催	日本代表ロゴ決定
2007	世界競泳開催(習志野)	日本水泳連盟提唱の世界大会実現
2008	北島五輪2大会連続2冠、水球WL開催	National Training Center(NTC)オープン
2009	古賀世界水泳で金メダル	マルチサポート事業開始
2010	競泳ワールドカップ開催	佐野会長が国際水泳連盟理事就任
2011	世界水泳で6個のメダル獲得	国際オリンピック委員会(IOC) スポーツと環境賞受賞



センターホールに日の丸を!

### 公益財団法人日本水泳連盟とは(公式ホームページより引用)

日本水泳連盟は、日本の水泳界を統轄し、代表する団体として、水泳および水泳競技(競泳、飛込、水球、シンクロナイズド・スイミング、オープンウォータースイミング、日本泳法)の健全な普及と発展を図り、それによって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的としている。つまり、日本水泳連盟は国際的には国際水泳連盟(FINA)の加盟団体として、国内的には(公財)日本体育協会・(公財)日本オリンピック委員会の加盟団体として活動し、水泳を通じてわが国のスポーツの振興・発展に努めている団体です。



2020年に向け、3つの構想を中心として、日本水泳連盟の価値向上を図ります。

センターボールに目を配る!

3つの中心となる具体的構想を、スペシャリストの意見を交え、  
更なる価値向上を図ります。

日本水泳連盟の  
価値向上

### ドリームプロジェクト(仮)会議

日本水泳連盟に有識者からなる会議  
を設け、連盟の活動状況の点検・評価を  
行い、国際競技力向上、組織力、生涯  
スポーツ、国際戦略等の必要な機能や  
強化について、定期的に会議を開催し、  
様々な観点から検討する。



## 『国際競技力の向上』

日本代表の更なる強化、水泳強国実現へ。

### 「メダル獲得数の拡大～世界のトップ5へ」

(2020年のオリンピック東京招致活動と連動した)

### 「アジア選手権2016・世界水泳2019 の日本招致」

### 「関係団体との連携強化」

センターボールに日の丸を!



主要国際大会でのメダル獲得数は一定の成果を上げ、ロンドンでは最多11個のメダルを獲得し総数で世界第2位と、世界のトップ5入りを果たしました。

しかし、さらなる高みを目指し、アメリカや中国、オーストラリアなどいわゆる「水泳強国」に肩を並べるにはもうひとつ壁を越えたい。長期スパンでみた育成プログラムやエリート教育など各方面から戦略的な選手強化を行い、国際大会でのメダル獲得へ次世代も見据えたプラン作りを目指します。

## 「メダル獲得数の拡大～世界トップ5へ」

2000 シドニー

順位	国・地域	金	銀	銅	計
1	アメリカ合衆国	15	9	11	35
2	オーストラリア	6	9	6	21
3	中国	5	5	0	10
4	オランダ	5	1	2	8
5	ロシア	4	3	4	11
6	イタリア	3	1	2	6
7	ウクライナ	2	2	1	5
8	ルーマニア	2	1	1	4
9	ハンガリー	2	0	0	2
10	スウェーデン	1	2	1	4
11	日本	0	4	2	6
12	スロバキア	0	2	0	2
13	カナダ	0	1	3	4
14	南アフリカ	0	1	1	2
	フランス	0	1	1	2

2004 アテネ

順位	国・地域	金	銀	銅	計
1	アメリカ合衆国	12	9	10	31
2	オーストラリア	8	6	7	21
3	中国	7	3	1	11
4	日本	3	3	4	10
5	オランダ	2	3	2	7
6	ロシア	2	3	2	7
7	ウクライナ	2	0	1	3
8	フランス	1	2	3	6
9	ポーランド	1	2	0	3
10	南アフリカ	1	1	1	3
	ジンバブエ	1	1	1	3

2008 北京

順位	国・地域	金	銀	銅	計
1	アメリカ合衆国	12	11	10	33
2	中国	8	4	6	18
3	オーストラリア	7	7	9	23
4	ロシア	4	4	4	12
5	オランダ	4	0	0	4
6	イギリス	2	4	3	9
7	ドイツ	2	1	3	6
8	日本	2	0	4	6
9	ジンバブエ	1	3	0	4
10	フランス	1	2	3	6

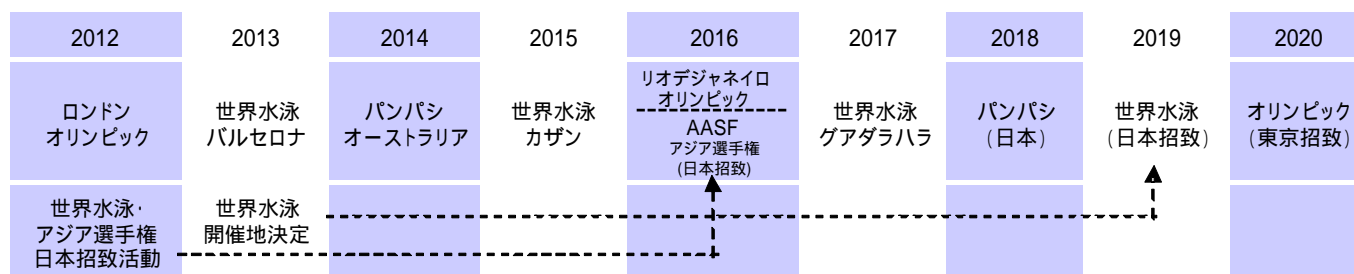
2012 ロンドン

順位	国	金	銀	銅	メダル	
					数	順位
1	USA	16	8	6	30	(1)
2	CHN	5	2	3	10	(3)
3	FRA	4	2	1	7	(5)
4	NED	2	1	1	4	(6)
5	RSA	2	1	0	3	
6	AUS	1	6	3	10	(3)
7	HUN	1	0	1	2	
8	LTU	1	0	0	1	
9	JPN	0	3	8	11	(2)
10	RUS	0	2	2	4	(6)

2001年の世界水泳福岡、2002年のパンパシ水泳横浜などの国際大会の国内開催で、日本代表のレベルアップが実現。巷でも水泳への関心が高まり、水泳競技のステータスがステップアップしました。2018年のパンパシ、2020年のオリンピック招致活動と連動し、世界水泳界・アジア水泳界各最大のビッグイベントである世界水泳・アジア選手権の日本招致で、更なる競技力と競技運営のアップを目指します。

(2020年のオリンピック東京招致活動と連動した)

# 「アジア選手権2016・世界水泳2019の日本招致」



センターボールに日の丸を!



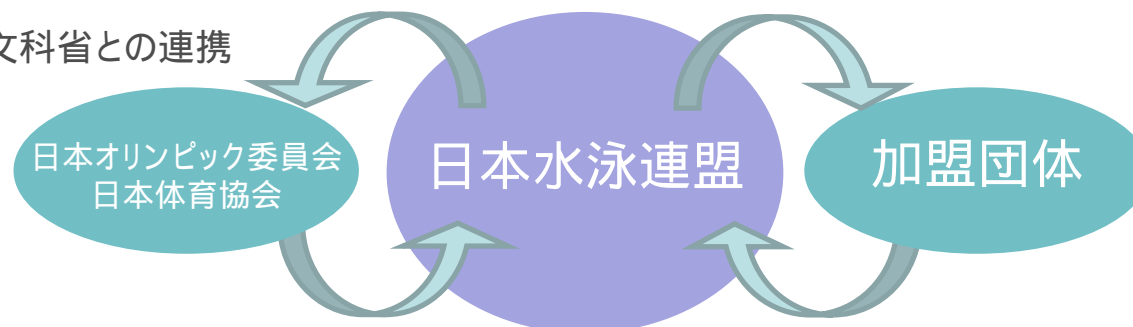
日本代表の更なる強化を実現するには、日本水泳連盟と、日本全国の監督、コーチが連携して強化方針を確立していくことが重要になります。マルチサポート各分野のプロフェッショナルの意見を積極的に採用するとともに、文部科学省、日本体育協会、日本オリンピック委員会及び他団体との情報共有、フィードバックを繰り返し、より効果的な選手強化策の確立を模索します。JISSやNTCなどの国内組織とも密接に結びつき、選手の一貫指導を推進します。

## 「関係団体との連携強化」

(具体的施策)

- ・日本オリンピック委員会 / 日本体育協会 / 文科省との連携
- ・JISS / マルチサポートとの連携
- ・NTC プールの専用利用の推進
- ・特別強化委員会でのプラン策定
- ・中央と地方が連携した一貫指導

強化のために関係団体との情報共有、フィードバックを密に行う



センターボールに目の光る!

## 『水泳競技の普及と発展』

より多くの人々が水泳に親しむために。

「競技者登録数 25万人へ」

「大会運営のバージョンアップ」

「国内外への情報発信力強化」

センターボールに目の光を!

2012年の日本水泳界の競技者登録は約22万人、(日本マスターズ水泳協会登録数47,356人、登録料免除中学生等登録数60,613人を含む)に達しますが、少子化や競技施設の減少の時代において更なる競技人口の増加を目指します。日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会と連携し、強力な組織化を進めることを、今後の重要課題として取り組んでいきます。

## 「競技者登録数 25万人へ」

	競技登録者数
幼児	896
小学生	52,628
中学生	59,161
高校生	45,838
大学生	9,057
一般	59,675
合計	227,255

日本水泳連盟 有償登録数 119,286人  
 無償登録数 60,613人  
 日本マスターズ水泳協会登録数 47,356人  
 (平成23年度末現在)

(具体的施策)

- 各都道府県水泳連盟(協会)、日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会との連携強化
- 競技環境の整備



センターボールに目の光を!

世界各国から絶賛されている日本水泳連盟の大会運営。正確無比な競技運営に加え、来場者に対し様々な企画を採用して大会を魅力的なものにしています。引き続き競技役員の間際間交流や、FINAが行う世界レベルの運営を積極的に採用し、大会運営のバージョンアップを図ります。また、日本水泳連盟全体として取り組んでいるスポーツ環境保全活動や、競泳代表選考会で実施した募金活動などの社会貢献活動も推進していきます。

## 「大会運営のバージョンアップ」

(具体的施策)

- ・正確でスムーズな競技運営
- ・世界レベルの大会運営
- ・会場での社会貢献活動  
(スポーツ環境保全活動)  
(被災地復興支援活動)

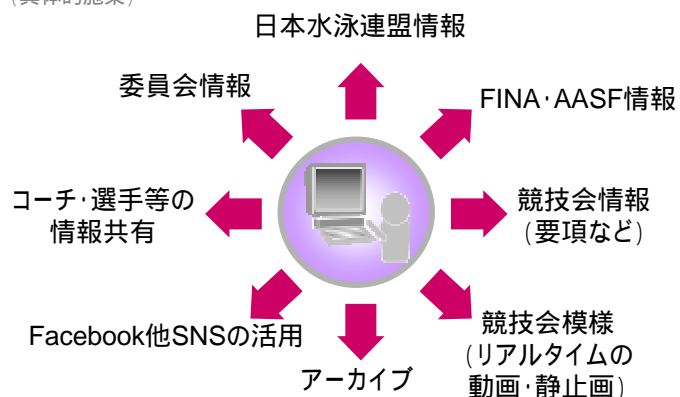


センターボールに日の丸を!

情報化時代にふさわしく、WEB上のさまざまなコミュニケーションツールを情報発信力強化のために効果的に活用します。日本全国にいるコーチ、選手等への日本水泳連盟からの情報共有ツールとして活用したり、競技上の知識やモチベーションを向上させることを目指し、幅広いファン層に向けて魅力的でわかりやすいコンテンツを発信していきます。またFINAをはじめとする海外団体との情報共有のための英文サイトを用意するなど国外に向けての情報発信力も同時に高めていきます。

## 「国内外への情報発信力強化」

(具体的施策)



センターボールに目の光を!



## 『スポーツによる社会貢献』

水泳を通じた教育・環境問題等社会に貢献する幅広い活動の実施。

「『水泳の日』の創設」

「SWIM for JAPAN」  
(日本代表OB,OGの会員組織の結成)

「更なるスポーツ環境啓発活動への取り組み」



水泳界発展のためには、より多くの人々が水泳に親しむことが重要となります。国民皆泳をめざし「水」と触れ合う機会を増やし、「水」と近い生活を提供していけるよう努力していきます。文部科学省・日本体育協会・日本オリンピック委員会と連動し、水泳愛好者が楽しめる「水泳の日」を創設し、全国へ展開していきます。

## 「『水泳の日』の創設」

「水泳の日」に日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会と連動した全国規模のイベントを実施

- ・水泳三団体主催の全国イベント実施
- ・各加盟団体での普及イベント実施  
(記録会、泳力検定、水泳教室等)



センターホールに日の丸を!

元日本代表選手など大きな功績を残した選手たちは、その存在自体が日本水泳界の大切な財産です。日本代表のOB・OGを会員として組織立て、かれらの選手活動を経て得た様々なノウハウを蓄積し、次世代の選手たちの育成にも役立てると共に、選手が引退後も指導者などとして活躍できる場を提供できるようにします。また、日本体育協会や日本オリンピック委員会との連携で、小中学生への普及活動などの草の根運動も実施していきます。

## 「SWIM for JAPAN」 (日本代表OB・OGの会員組織の結成)

(具体的施策)

- ・OB・OGの会員組織の結成
- ・就職活動支援
- ・全国の水泳教室等へ選手を派遣
- ・元選手を対象とした指導者研修
- ・現役指導者の更に高い知識の獲得  
(コーチの海外研修派遣)
- ・フェイスブックを活用したQ & A等



センターホールに日の丸を!

先日、国際オリンピック委員会 (IOC) のスポーツ環境賞を受賞。日本水泳連盟の「エコ活動」は世界で認められています。今後、選手や役員による啓発活動や大会での活動告知を積極的に推進し、来場者や水泳ファンも交えた日本水泳連盟発による「更なるスポーツ環境啓発活動への取り組み」を図り、社会貢献活動を推進していきます。

## 「更なるスポーツ環境啓発活動への取り組み」

(具体的施策)

- ・ペーパーレス、飲料のサーバー化等の廃棄物のない大会運営を目指す。
- ・ゴミ分別等の取り組み
- ・選手や役員による環境保全活動の啓発活動
- ・一般ファンを交えたエコ・コンテストの実施
- ・「水」の大切さの啓発など既存の取り組みに加えて新規の取り組みも積極的に行う。



センターボールに目の光を!

# 2020年までのロードマップ

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
<b>主なイベント</b>	ロンドン オリンピック	世界水泳 バルセロナ	パンパシ オーストラリア	世界水泳 カザン	リオデジャネイロ オリンピック・ AASF アジア選手権	世界水泳 グアダラハラ	パンパシ (日本)	世界水泳 (日本招致)	オリンピック (東京招致)
<b>国際競技力の 向上</b>	ホップ	第一次強化期間			ステップ	第二次強化期間			世界のトップ5
	アジア選手権招致活動	世界水泳招致活動	世界水泳開催準備活動		アジア選手権開催	世界水泳視察・プレ大会		世界水泳開催	オリンピック開催
	外部組織との連携 ~ 効果的な情報提供								
<b>組織力の 向上</b>	第一次推進期間				第二次推進期間				25万人達成
	大会運営のバージョンアップ				アジア選手権開催	世界ジュニア?	パンパシ開催	世界水泳開催	オリンピック開催
	OB・OG会立ち上げ	第一次ブームアップ期間				第二次ブームアップ期間			
<b>水泳文化の 普及と発展</b>	水泳の日創設	「水泳の日」のブームアップ							
	国内外への情報発信力強化								
	新規環境啓蒙活動の推進								